

## 改善課題・対策報告表

委員長連絡会議で寄せられたご意見について学校・役員会の対応と進捗を以下のとおりご報告します。

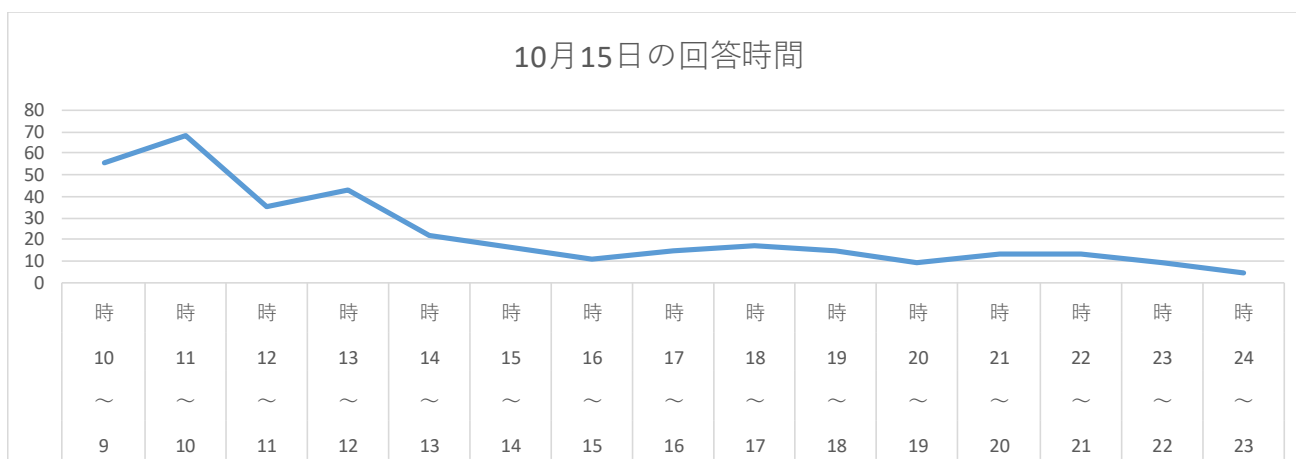
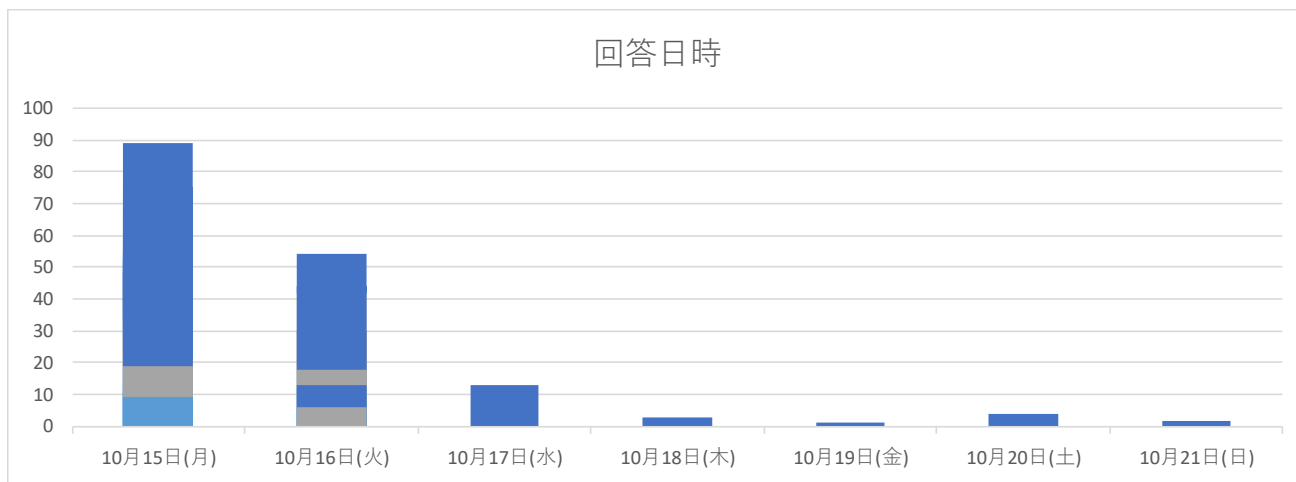
課題番号 1	課題の種別 高1進路講演会への中3の参加について	
現状の問題点や利用状況	(中学3年) 2019年1月開催の高校1年の進路講演会に中学3年も参加(聴講)できないか。	
委員長連絡会議での状況	(高校1年) 講演会内容について、高1と進路学習部が打ち合わせした内容(大学入学者選抜改革については、確定した情報なく、伝えられることが少ない。高校1年生の今の時点で準備すべきこと、知っておくべきことを中心に講演することになるなど)の報告や出欠やバス増便などの事務的なスケジュールについて情報共有した。	
改善の具体案・代替案	期待できる効果	実施に当たっての問題点・留意点
<p>(進路学習部からの回答 2018.11) → 高校1年学年委員会主催の進路講演会であり、すでに内容も10月に高校1年学年委員会と打ち合わせを行っているため、今回は見送りとさせていただきたい。新しい受験制度(高大接続改革)についてもわかっている範囲で講演するが、未確定な情報も多く、現中3以降は更なる変更点も考えられるため、聴講することにより却って混乱を招く恐れがある。「大学と入試の現状」「高校1年生のこの時期に必要なことは」が主たるテーマになるかと思う。申し訳ないが、今回に関してはご遠慮して欲しいと思う。</p>		<p>(役員会より) 学校も試行錯誤しているので、今回の決定を受けて、今後も講演会への様々な要望が却下されると思いたまわないで欲しい。中学生から大学受験の進路講演会の開催案が上がったり、開催の必要性を感じた際には企画案を作成して学校に相談して欲しい。</p> <p>(学校より) 今回の件は管理職の間でも確認した。今後も提案があれば遠慮なく提案していただきたい。</p>

課題番号 2	課題の種別 進路講演会の時間配分について	
現状の問題点や利用状況	<p>(高校2年) 2018年度の進路講演会の時間配分について、ベネッセの講演時間がおしたせいもあるが、進路学習部(小泉先生)の講演時間が少なかった(70分:20分程度)。 また内容について、ベネッセからは2020年度開始の大学入学者選抜改革に関連した話が多かったが、高校2年は旧制度の入試となるため、今回のように時間を割く必要はなかったように思う。来年度に向けて学校に意見を伝えていただきたい。</p>	
委員長連絡会議での状況	<p>(役員会) ベネッセの講演の必要性(極端に言えばベネッセの講演は必要かどうか)について、各学年幹事からの意見は以下のとおり。 (高校2年) ベネッセの講演会の時間は必要だが、日大進学などの内容について、もっと詳しく知りたかった。 (高校3年) 経験者としての意見であるが、世間一般的な受験の方向性を知っておくことも大切であるため、ベネッセの講演は必要である。 (中学3年) 現在の高校1年から学内の特進クラスなどの学年編成が変更されている。特進クラスの指定校推薦受験が可能になったことなど、高校進学後にどのような方向性をもって進路指導をしていくのか、学校に明確に説明してもらえると良い。</p>	
改善の具体案・代替案	期待できる効果	実施に当たっての問題点・留意点
<p>(進路学習部からの回答 2018.11) 高1は進路主任から、高2はベネッセから講演という主軸でやっている。ただ、推薦での進学生徒も多くいるので、高2の講演会で小泉が「推薦」に特化した話を加えている。3年になって、保護者の前で登壇して話をする機会が3回あり、この支援会講演会ですべての推薦の話をしてしまうのもどうかと思う。ただし、ベネッセの講演時間をやや短めにしたり、終了時刻をもう少し遅くするなど変更は可能である。今年は特に終了時刻を気にしての推薦の話であった(ベネッセが予定よりも10分押したため)。 また、特進クラスの方向性に関しては、中3の保護者会や希望生徒には既に説明していると学年主任より報告を受けている。</p>		<p>課題1の学校の回答を参照。</p>

課題番号 3	課題の種別 一斉メール配信の支援会活動における利用について	
学校への依頼内容	(役員会) 学校の運用ルールも確立されてきたため、幹事からの配信の要望が高かった各学年委員会開催の懇親会出欠やリサイクル委員会の制服回収などの作業において、効果がある一斉メール配信を利用したい。	
過去の経緯	一斉メール配信システムは、2016年度から緊急連絡網廃止に伴い正式な連絡網として導入された。生徒支援会では、導入初年度より、懇親会の出欠や文書配付などに利用していたが、学校情報の配信数とのバランスや学校配信を精査したいという指示があったため、役員会ではその意向を各委員会に周知し、支援会活動内容の配信を控えてきた。そのうえで利用の希望がある場合、最終決定は学校(役員会担当教員)に委ね利用してきた。 例 支援会活動に関する利用実績：幹事募集、バス便アンケート、進路講演会資料持参など	
改善の具体案・代替案	期待できる効果	実施に当たっての問題点・留意点
<p>2019年1月以降の支援会活動から回数を制限した利用ができることになった。</p> <p>(回数について)</p> <p>■学年懇親会や進路講演会お便り配付 →年1回</p> <p>■リサイクル品回収 →年3回(車での来校が可能な三者面談時など制服を持ち運び易い機会に配信)</p> <p>■役員会からのお知らせ →役員・幹事募集、総会の出欠、Web限定のお知らせなど</p> <p>上記以外で、役員会が必要と認めた場合は、その都度学校に検討していただき掲載する。</p> <p>例 バスについてのアンケート、支援会サイトの掲載のお知らせ など</p>	<p>懇親会の出欠未提出者の削減により、督促作業や人数把握までの時間が縮小でき、学年の支援会担当教員と幹事への負担が軽減される。</p> <p>制服のリニューアルの影響もあり、ここ数年、リサイクル品の回収数が下がっているが、リサイクル品を求める声は多い。メール配信により、少しでも多くのリサイクル品が収集できることが期待できる。また、メール配信された機会については、紙での文書配付をしないことで、幹事の印刷作業の負担軽減と資源の節約にもつながる。</p>	<p>役員会でも承認され、学校の下承も得ている。</p> <p>メール配信システムでは、時間を指定可能。文字数や依頼方法など詳細なルールは来年度の第1回幹事会にて周知予定。</p>

課題番号 4	課題の種別 リサイクル品の回収について	
現状の問題点	(リサイクル委員会) 保護者のリサイクル品購入の要望はあるが、回収品が少ないという現状がある。保護者会などの機会に、学校(担任)に協力していただきリサイクル品回収の周知をすることはできないか。	
改善の具体案・代替案	期待できる効果	実施に当たっての問題点・留意点
<p>2019年度は、一斉メール配信の機会を上手に活用してリサイクル委員会の活動を広報する。</p> <p>年度初めには、回収できる制服の種類などを文書で丁寧に説明し、旧制服との選別作業の負担を軽減できるように図る。</p>		<p>保護者会は、学校生活について担任が保護者に伝えることが最優先される。大学受験を控えた高校生、新入学年の初回などは、伝えるべき内容も多く、時間が取れないことも想定される。また、全クラスにリサイクル委員が配置されているわけではないので、担任のサポートもしづらい。</p>

<課題 2,3 についての参考資料> 三覺祭のバス便アンケート 10月15日(月)9時40分に配信



課題番号 5	課題の種別 中・高体育大会での飲料配布の幹事のお手伝いについて	
現状の問題点	(イベント委員会) 中・高体育大会での飲料配布の幹事のお手伝い方法を見直すことはできないか。人数がもっと少なくてもよいのではないか、また幹事のお手伝いは必要か。	
過去の経緯	飲料配布活動の開始時は、名簿チェックなど配布方法に手間がかかり、学年・各種委員会の幹事全員にお手伝いをお願いしていた。配布方法をシンプルにし現在に至っている。また、学年・第8支部委員会については、三疊祭の受付のお手伝いをお願いしている。	
改善の具体案・代替案	期待できる効果	提案
<p>(役員会) 2018年度は雨天により、平日の開催となったため、その後の三疊祭の事前準備等、平日の活動が増え、仕事との両立の面でご負担をかけてしまったと思う。また強制的にお手伝いを募ったような印象を与えてしまったなら、役員として依頼の方法を反省すべきである。</p> <p>役員だけで対応可能かどうか話し合った。</p> <p>■できないわけではないが、やはり何人かにお手伝いしていただくと助かる</p> <p>■各委員会1人というのはお願いしにくく、やはり2,3人という依頼となってしまう</p> <p>■委員会を限定せず、全幹事に呼びかけてみるのも案だが、人数の管理が難しい。</p> <p>というのが現時点での見解である。</p>	<p>異なる委員会の幹事の方との交流の機会となり、その後の活動のコミュニケーションも取りやすくなる。</p> <p>実際の活動に関わっていただくことで、役員の活動を知っていただくひとつの機会となる。</p>	<p>ほとんどの方がお仕事や介護、育児をしながら活動に協力していただいております。飲料配布に限らず、幹事の方の負担を見直す時にきているように感じる。</p> <p>試行錯誤となるが、ご意見に真摯に向き合い少しでも改善することにより、より多くの保護者の皆さまに支援会活動に関わっていただきたいと考えている。</p> <p>この場を借りて、幹事の皆さま方に、率直なご意見を伺い、来年度の参考としたい。</p>

課題番号 6	課題の種別 懇親会出欠連絡取りまとめの窓口について	
現状の問題点	<p>(役員会) 懇親会の出欠締切後の督促・変更はどの程度まで必要か。</p> <p>現在、窓口は、学校と相談し、各学年の支援会担当教員(中学1年であれば大野先生、高校3年であれば阿川先生)と学校の代表電話番号となっている。窓口となる教員の負担も視野に入れ、厳密な数が必要なのかについて再考したい。</p>	
過去の経緯	<p>過去は、連絡先として、本人の許可を得て、委員長など各委員会の幹事氏名と連絡先電話番号などを表記していた。個人情報の観点から、現在の表記に変更となった。</p>	
改善の具体案・代替案	期待できる効果	実施に当たっての問題点・留意点
<p>人数把握をする理由は、バスの増便とお茶菓子の発注、食堂の座席数のためである。</p> <p>バスの増便については、大まかな人数が把握できればよい。またお茶菓子については集金もなく、不測の事態に備え、過去の実施をもとに予備を含めて発注するため、厳密な数字は必要ない。</p> <p>食堂の座席数については、事前に確実な出席者数が把握できた方がよいことに越したことはないが、当日のキャンセルも含め対応可能ではないかと考えられる。</p> <p>以上の理由から、極端に出欠票の提出が少ない場合を除き、連絡は不要とする案も視野に入れて検討したい。</p>	<p>幹事、担当教員の負担が軽減できる。</p>	<p>この場を借りて、幹事の皆さま方や担当教員の方々の率直なご意見を伺い、来年度の参考としたい。</p>